

事例10

< 事例概要 >

大腿骨接合術

- ① 80歳代、体重60 kg 台、脳梗塞がある患者。抗血栓薬内服中（休薬なし）。
- ② 大腿骨転子下骨折に対し、受傷翌日に骨接合術（髓内釘）を施行。
- ③ 近位骨片が前方へ跳ね上がり近位骨片遠位の前方凸転位が強く、皮膚切開を延長し、観血的整復とした。手術開始約1時間で出血量1,000 mℓ、血圧80 mmHg台となり、補液負荷し昇圧薬を数回投与。Hb 8 g/dℓ 台、赤血球液をオーダーし、不規則抗体スクリーニング検査をしてから手術終了直後に投与。術中出血量1,960 mℓ。退室時Hb 4 g/dℓ 台、血圧80 mmHg台、心拍数80 回/分台。
- ④ HCU帰室時、創部ガーゼ全面に出血あり、顔面蒼白。赤血球液を投与。約2時間後、血圧70mmHg台、心拍数110 回/分台、覚醒不良。創部出血が持続し、昇圧薬を投与。約3時間後、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）70 %台、心拍数50 回/分台、呼名反応がなく、心停止となり、帰室約4時間後に死亡。
- ⑤ 死因は、出血性ショック。死亡時画像診断（Ai）有（大腿の腫脹）、解剖無。